北海道倶楽部
毎月１回１日発行　定価８０円
公益社団法人北海道倶楽部
〒100-0014 東京都千代田区永田町2-17-17 北海道東京事務所1 階
TEL 03-3581-4021 FAX 03-3581-4022
E-mail hkkd-clb@soleil.ocn.ne.jp
http://www.hokkaido-c.or.jp/

We Love Hokkaido 北海道 "NOW" KITAKARA

北海道情報紙 知らないこと いっぱい！！

HOKKAIDO CLUB SINCE 1927

ブラウンリボンバッジに注文殺到 倶楽部

プーチン・露大統領の択捉訪問以来

1カ月で353個も

北方領土の返還を訴え、**北海道倶楽部**が有料配布（頒布）するブラウンリボンバッジに、このところ注文が殺到している。8月13日、ロシアのプーチン大統領が択捉訪問を強行して以降、メディアなどで紹介され、倶楽部事務局には全国から問い合わせが相次いだ。バッジ着用が、北方四島を実行支配するロシアへの「抗議の象徴」とも受け取れ、倶楽部は歓迎している。

現在、有料配布しているのはブラウン、千島桜、札幌延伸の早期実現を求める新幹線バッジの3種類。4個1000円で、組み合わせは自由だ。

配布数はブラウンが群を抜いて多く、配布開始の2011年からこれまでに約5万個に上る。ちなみにブラウンは北方領土の土の色を表す。

拉致被害者のブルーリボンバッジには及ばないものの、ブラウンは着実に「市民権」を獲得。例年2月の北方領土返還要求全国大会では、高市早苗首相をはじめ、多くの閣僚、国会議員らが着用している。

今回、ブラウンの注文が増えたのは「政治家がSNSで紹介したことや、メディアが報道したことが大きい」と倶楽部の西村由紀子事務局長は指摘する。

普段はブラウンの注文は月20個程度。それが8月13日から1カ月間で、配布数は353個に上り、今なお、全国から注文の勢いは衰えない。また、千島桜バッジも注文が増えているという。


注文が増えているブラウンリボンバッジ（左）右は千島桜バッジ

日口関係の悪化で、膠着が懸念される北方領土返還運動。墓参やビザなし交流はおぼつかず、風化も取りざたされるが、バッジの注文を見る限り、領土返還を求める国民世論はまだまだ根強いようだ。

副首都で道・大阪府連携

「多極分散型国家へ」

鈴木直道・北海道知事と吉村洋文・大阪府知事（日本維新の会代表）が8月31日、大規模災害時に首都機能を代替する副首都を巡り、「副首都の機能や体制についてともに検討する」ことなどを盛り込んだ、道と府による連携・協力協定を結んだ。

東京一極集中からの脱却に向け、「多極分散型国家への転換」を掲げた。そのうえで「それぞれが副首都となり、成長エンジンの役割を果たしていくことが可能」とし、「ともに副首都を目指す」と明記している。

札幌市内で行われた両知事の会談で合意した。副首都に名乗りを上げた道府県同士の協定締結は初めて。協定では、道と府は東京圏との同時被災リスクが低く、国の行政機構が集積していることなど、メリットを挙げた。

会談で鈴木知事は「それぞれの地域を活性化し、成長のエンジンを増やすことで、国に貢献する」と強調。吉村知事は「首都機能のバックアップ、多極成長の日本を目指す中で、北海道と大阪の果たす役割は非常に大きい」と話した。

副首都には現在、道、府のほか福岡、愛知県などが手を挙げている。議決を経た道府県の申し出を受け、最終的に首相が指定する段取りだ。

北大が開学150周年

「エルムの鐘」も復活

北海道大学（**北海道倶楽部会員**）が8月14日、開学150周年を迎えた。これまで送り出した卒業生、修了生は25万人を超え、国内、世界の最前線で活躍。初代教頭のウイリアム・スミス・クラーク氏が唱えた「フロンティア精神」は、今なお脈々と受け継がれている。農学部本館の時計塔に設けられ、使われなくなっていた「エルムの鐘」も同日、復活した。

北大のルーツは、開拓使仮学校を経て1876年（明治9年）、札幌農学校として開校。その後、東北帝国大学農科大学に昇格し、1918年（大正7年）、北海道帝国大学となった。2004年に国立大学法人北海道大学となり、人文・社会・自然科学のほぼ全ての分野を網羅する総合大学として発展している。

10年には鈴木章さんがノーベル化学賞を受賞。また北大出身で、現在客員教授の毛利衛さん（**北海道倶楽部会員**）が日本人初の宇宙飛行士になった。大学の社会貢献度を測る英国高等教育専門誌のランキングでは、今年世界7位となっている。

9月26日には、150周年を祝う記念式典を札幌市内で開催。同27日には記念コンサートも行われ、多くの卒業生、関係者らが詰めかけた。



一方、これに合わせ農学部本館の「エルムの鐘」が復活した。1935年（昭和10年）に設置されたが、戦時下に入ったことや故障が重なり未使用に。今回、札幌農学同窓会が150周年企画として調査、修復し復活させた。

8月14日の鳴金式には寶金清博学長らが出席、金を打った＝写真、**北海道新聞社提供**。同学長は「鐘は自由や自立の象徴と言われる。学ぶことの素晴らしさや意味を伝えてくれる鐘の音を、50年後も学生や教員に聞いてもらいたい」と話した。

新入会員 正会員

▼森林　正彰氏（1FINITI株式会社代表取締役社長）札幌市出身

★北海道倶楽部会報は、北海道新聞社から記事、写真の協力を得て、作成しています。

知事エッセー ～胆振管内で～

11月2日に特別講演会

講師は道新・吉田記者

北海道知事の鈴木直道です。今回、私が訪問したのは、地域の皆様のために様々な取組をされている胆振管内豊浦町の「有限会社山下機械店」です。

噴火湾における ホタテ養殖発祥の地である豊浦町で、ホタテ養殖に不可欠な機械の開発や整備を行われているこちらの会社は、社屋にカフェとして利用できるキッチンやセミナーなどが開催可能なスペースを用意され、地域の皆様が集まるコミュニティセンターとしての役割も果たされています。



また、「子どもを真ん中において、もう一度地域のつながりを取り戻したい」という山下社長やご家族の強い想いを形とされた「クラウドファンディング」を活用した花火大会の開催」や「女性が安心して働ける環境づくりのための事業所内保育施設の運営」などの取組をお伺いしました。

子どもたちが町中に声を響かせ、皆で子どもを育てていく大切さを改めて教えていただきました。これからも地域の産業を支えられながら、地域の活性化に取り組まれることを期待しています。



道としても、関係する皆様と連携を図りながら、人と人のつながりを大切に、活力あふれる地域づくりに取り組んでまいります。

講師は道新・吉田記者

北海道倶楽部主催の特別講演会が、11月2日（月）午後2時から東京・永田町の「永田町ほっかいどうスクエア」で開かれる。

講師は北海道新聞・東京編集局報道センター記者で、首相官邸キャップを長年経験した吉田隆久記者。高市政権の現状と展望や副首都構想についての講演を予定する。

会員以外も参加可。希望者は北海道倶楽部へメール（hkkd-clb@soleil.ocn.ne.jp）かファックス（03・3581・4022）で事務局へ。

ふるさとの本ご案内　北海道新聞社



貴重な写真300枚超、開港100年記念出版!
新千歳空港100年
相原秀起 著
B5判　192頁　定価2420円
村民たちが造った小さな飛行場はいかにして国内有数の大空港に発展したのか。「北海一号」の着陸から一世紀におよぶ空港の軌跡を振り返る。



福岡伸一氏（生物学者）推薦
北海道 森と湖の日々
水越武
B5変型判　160頁　定価3520円
阿寒摩周国立公園周辺の自然風景を収めた写真集。原生的な森と湖に囲まれ暮らす日々を厳選した写真90点と日記で構成する。

北海道新聞社出版センター 〒060-8711 札幌市中央区大通東4丁目1
TEL 011-210-5744　受付 9：30～17：30（土日・祝日を除く） 価格は税込
出版センターにお電話いただければ直接手配もいたします(代引き・送料別途)
お求めは書店またはインターネットで

不足のバス運転手道外と融通

道内組は春、秋、本州などに「出向」

道内の複数のバス会社が運転手不足解消のため、道外のバス会社と運転手を融通し合う、取り組みを始めた。観光需要の繁閑差に着目、商工組合中央金庫（商工中金）の仲介サービスを利用して運転手を相互出向させる試み。道内では都市間バスの増便につながるなど、早くも効果が表れている。



北海道拓殖バスに出向した道外のバス運転手（北海道新聞社提供）

商工中金の仲介サービスは「ＹＵＵＺＵＵ」。繁忙期と閑散期に、バス会社間で相互に出向させる仕組みで、商工中金がマッチングを後押しする。

道内では夏と冬に観光需要が集中する一方、道外では春や秋の行楽シーズンに貸し切りバスの需要が高い。繁閑期に違いがあり、この差を活用。夏と冬は道外の運転手が道内に、春秋の行楽シーズンは、道内の運転手が道外へそれぞれ出向するという仕組みだ。

十勝管内音更町の北海道拓殖バスは、すでに受け入れと送り出しの双方を実施した。

具体的には道内観光がオフシーズンの昨年10～12月、自社の運転手1人を広島県福山市のバス会社に派遣。道内観光がピークの今年1月中旬から3月中旬まで広島から2人、6月中旬～8月末には北九州市から3人を受け入れ、主に貸し切りバスの運行を担っている。

また、北海道運輸局の実証実験に参加した道南バス（室蘭市）は、昨年12月から今年3月にかけて、広島県府中市のバス会社から2人の運転手を受け入れ、路線バスを担当させた。その結果、人員に余裕が生まれ、都市間バスの増便が可能になったという。

同社は「コロナ禍で運転手不足が深刻になり、増便ができない状況に追い込まれた中、有効な手立てになった」と振り返る。

両社はこの取り組みに効果があると評価、今後も活用する考えだ。仲介した商工中金は「限られた人材を、企業や地域を超えて生かしていくことが重要だ」と話している。

運転手の融通を巡っては、宗谷バス（稚内市）と沖縄のバス会社が取り組んだ例もある。

ＪＲ北「上下分離」を撤回

沿線自治体から強い反発

ＪＲ北海道（**北海道倶楽部会員**）は9月16日、単独では維持困難とする赤字８区間（通称・黄色線区）の存続策として示していた「上下分離方式」について、撤回を表明した。綿貫泰之社長が記者会見で明らかにするとともに、「地域に多大な負担を強いることに、強いお叱りの言葉を受けた」と陳謝した。

綿貫社長陳謝

また、不動産など鉄道以外の事業の収益拡大を図る新たな子会社を、年内に設立する方針を明らかにした。赤字８区間の協議を巡り、「収益源を多様化し、経営改善を目指すべきだ」との指摘を踏まえたという。

自治体にレールや駅舎などの保有・管理を委譲する「上下分離方式」については、沿線自治体からの強い反発があり、ＪＲ北との協議は膠着状態だった。綿貫社長は提案撤回表明に当たり、「お詫びする」と頭を下げた。

今後、黄色線区の「抜本的な改善方策」に向け議論を進めるが、これまで協議の事務局を担ってきた事務局は、ＪＲ北から国土交通省北海道運輸局に交代。利用状況に応じた輸送体系のさらなる見直しなど、黄色線区の価値向上策などを検討する。

同日、鈴木直道知事は「私も上下分離は容易ではないと申し上げてきた」と厳しく指摘した。



新駅名の看板を持つ北広島市の上野市長（左）とＪＲ北の綿貫社長（北海道新聞社提供）

エスコン新駅は「Fビレッジ」に

開業は28年3月

プロ野球北海道日本ハムの本拠地、「エスコンフィールド北海道」を核とした「北海道ボールパークＦビレッジ」（ＢＰ、北広島市）に近くに整備されるＪＲ千歳線の新駅の名称が、「Ｆビレッジ」駅と決まった。また、開業時期は2028年夏としていたが、同年3月ごろの前倒しを検討する。北広島市の上野正三市長と、ＪＲ北海道の綿貫泰之社長が９月初め会談、この方針を確認した。

新駅は同市が事業費を負担する「請願駅」で、同線の上野幌駅（札幌・厚別区）と北広島駅の間に開業する。球場までの距離は３００㍍、徒歩４分で、現在の北広島駅からの20分から大幅に短縮、ぐんと便利になる。

駅名は同市が7月、市民から募集。計１８４８件の応募があった。集まった案を参考に市が候補案を固めて、ＪＲ北に提案、同社が決定した。市民の応募は「Ｆビレッジ駅」が最多で、他に「ボールパーク駅」「エスコンフィールド駅」などがあったという。

一方、開業時期については、ＪＲのダイヤ改正は３月が一般的なことから、当初案の28年夏から同年3月への前倒しを検討する。同月下旬が通例のプロ野球レギュラーシーズン開幕に間に合う可能性が高くなった。

上野市長は「新駅の名称決定は開業に向けた大きな節目。市民の期待や、開業に向けた機運をさらに高める」と歓迎。綿貫社長は「地域や訪れる皆さまに末永く親しまれる駅となるよう、しっかり取り組んでいく」と話した。

マグロ豊漁でも浮かぬ顔

道内では定置網被害

列島各地が久しぶりにマグロの豊漁で沸く中、道内沿岸ではマグロに定置網が破られるなど、被害が深刻化している。年間１０００万円超の損害を出した漁業者もおり、国に救済を求める声も。マグロの資源回復も、道内漁業には「皮肉な結果」をもたらしている。

日高管内浦河町の定置網漁業者は「マグロが来てから他の魚がぱったりといなくなった。漁にならない。網も破られて本当に困っている。

北海道定置網漁業協会によると、マグロによる網被害は3年ほど前から問題になり、今年は特に道東から日高地域が目立つ。

8月開かれた太平洋クロマグロの資源管理を求める国際会議では、漁業枠の25％拡大が決まった。ただ、同協会は「仮に各漁船の枠が25％ずつ増えても、定置網にマグロが入るのは避けられない」と実情を明かす。

クロマグロを水揚げし販売することはできないか。国際規制で浦河町の漁業者の場合、自らの船に割り振られる漁獲枠は年間数匹程度。網にかかっても、ほとんど放流するしかないが、死んでしまうケースも少なくない。

道産ジャガイモ「じゃがいもっと」にホクレンが統一ブランド

ホクレン（**北海道倶楽部会員**）は、道産ジャガイモの統一ブランド「じゃがいもっとＨＯＫＡＩＤＯ」＝**写真、北海道新聞社提供**＝を立ち上げた。生食用ジャガイモの生産が減少する中、男爵イモやメークインなどの主力から新品種まで、一体的に売り込む狙いだ。

道内のジャガイモの作付面積は、担い手不足や高齢化、気候変動などの影響で年々縮小傾向。一方、消費者側では簡便調理などで人気が高く、ニーズが高まっている。

そこでホクレンは、道産ジャガイモの信頼や認知度を高めようと、２年ほど前から統一ブランドを検討してきた。今後は統一ロゴを店頭販促物や広告、イベントで活用するほか、品種ごとの特徴や料理法について、スーパーや交流サイト（ＳＮＳ）などで発信する。

道内の農協やホクレンなどでつくる、馬鈴しょ取扱対策会議は「北海道のジャガイモといえばこのマーク、と認識してもらえる未来を目指す」と話した。



北海道新聞社の本

★北の自然じかん　ボクは都会に生きるハシブトガラス
中村眞樹子　著　Ｂ５判　64頁　定価１６５０円
札幌中心部でのカラスの産卵から子育ての観察記録をもとに、成鳥までの歩みと生態をイラスト付きで詳しく紹介する写真絵本。

★ワインは北から　北海道ワイン教育研究センターが拓く未来「北大道新アカデミーブックレット」
北海道大学リカレント教育ユニット　編　Ａ５判　144頁　定価１６５０円
北海道大学と北海道新聞グループが連携して開いた公開講座の書籍化。北海道ワインの魅力と可能性を多角的に分析する。

★カレンダー２０２７　しまえながのきもち
写真　山本光一　横２１０ミリ×縦１４８ミリ　定価１１００円
〈月めくりプラケース付き　卓上式14枚〉大人気、北海道のシマエナガの四季折々の愛らしい姿とほんわかコメントを毎日のお供に。ポストカード仕様。

★カレンダー　北海道の鉄道風景２０２７
北海道新聞社　編　Ａ３判（開くとＡ２判）　定価１５４０円
〈月めくり壁掛け式14枚つづり・28頁〉北海道の美しい鉄道風景を、珠玉の写真でお楽しみいただけます。



道産米概算金４割減に「ななつぼし」「ゆめぴりか」も

ホクレン（**北海道倶楽部会員**）は、２０２６年産主食用米の集荷時に、生産者に支払う概算金（仮払金）を決めた。

主力の「ななつぼし」は玄米60㌔当たり１万８０００円と、いずれも約４割減の大幅引き下げとなった。

25年産は「令和の米騒動」と言われた米不足の影響で、異例の高値となった前年比１万２０００円が、需給が緩み全国的に多減の１万７０００円。「ゆめぴりか」も同様に１万２０００円減の１万８０００円と、いずれ

日高町のご紹介
ひだか

「馬と自然が織りなす極上の時間 清流とサラブレッドに出会えるまち・日高町」

観光スポット

北海道の中央南部に位置する日高町は、壮大な山並みが連なる「日高地区」と太平洋に面し馬文化が根付く「門別地区」の2つの異なる表情と魅力を持つ広大な町です。国内最大の陸域面積を誇る「日高山脈襟裳十勝国立公園」の北の玄関口としての魅力溢れるアクティブな旅から、サラブレッドが佇む牧歌的な風景に癒やされる穏やかな旅まで、訪れる時期や目的に合わせた多彩な観光が叶います。



○新たな観光・交通拠点「富川複合施設 とみくるマルシェ（とみくるマルシェ）」

富川地区にオープンした複合施設「とみくる」は、町民の交流拠点であり旅のスタート地点となる注目のスポットです。館内の「とみくるマルシェ」には、海と山に囲まれた日高の豊かな特産品や名産「日高サラブレッドサブレ」、競馬・乗馬ファン必見の有名馬グッズなどが勢揃い。テイクアウトカフェや観光案内、競馬ゆかりの展示も充実しており、バスターミナルも併設されているためドライブやバス旅の途中に立ち寄るのに最適です。



○競走馬の躍動を間近で体感「門別競馬場（グランシャリオナイター）」

「馬産地・日高」を象徴するスポットであり、全国的にも珍しいナイター競馬場「グランシャリオナイター」を開催している競馬場です。ライトアップされた美しいコースをサラブレッドたちが駆け抜ける姿は迫力満点。競馬ファンならずとも、その躍動感とスピード感に魅了されます。

場内には地元の味覚を楽しめるグルメスポットや、子どもたちが遊べるスペースも充実しており、家族連れや観光客が気軽に立ち寄れるエンターテインメント施設となっています。





○名馬たちと触れ合う癒やしの牧場「Ｙｏｇｉｂｏヴェルサイユリゾートファーム」

ＧⅠレースを制した往年の名馬をはじめ、多くの引退競走馬たちがのびのびと過ごす話題の牧場施設です。併設されたカフェからは、広い放牧地で過ごす馬たちの姿を眺めながらゆったりとした時間を楽しむことができます。さらに敷地内での宿泊体験やオリジナルグッズの取り扱いなど、馬との心温まる触れ合いを通じて贅沢な癒やしのひとときを満喫できる人気スポットです。

○国立日高山脈山麓の自然を満喫「道の駅 樹海ロード日高」

国道274号と237号が交差する交通の要所に位置し、日高町観光の拠点として賑わうスポットです。敷地内には特産品を取り揃えたショップのほか、日高山脈の自然や登山情報、地域の歴史を紹介する展示コーナーが併設されています。国立公園内に位置する日高エリアのアクティビティ情報を収集する第一歩としても外せない場所です。

周辺には清流・沙流川が流れ、四季折々の美しい山並みを一望できます。



○絶景と極上のパウダースノー「日高国際スキー場」

日高山脈の雄大なロケーションをバックに滑走できる、道南ツインリバーエリア屈指のスキー場です。初心者から上級者まで満足できる全11コースが整備されており、極上のパウダースノーを求めて多くのスキーヤーやスノーボーダーが訪れます。山頂からの眺望は圧巻で、白銀に染まる日高山脈を一望できる絶景が広がります。グリーンシーズンにはトレッキングやハイキングの拠点としても親しまれ、年間を通じて日高の山々の魅力を体感できます。

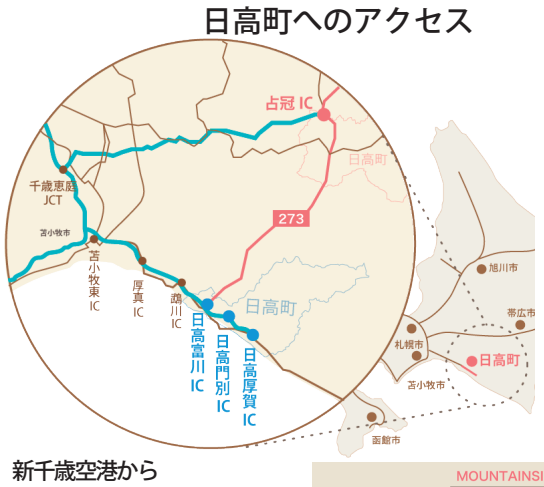
○清流で挑むスリリングな冒険「沙流川ラフティング」

日本有数の清流として知られる沙流川は、ウォータースポーツのメッカです。雪解け水で増水する春のスリリングなコースから、夏場のご家族で楽しめるファミリーコースまで、レベルに合わせたラフティングツアーが多数開催されています。経験豊富なガイドとともに川を下りながら、透き通る水面やダイナミックな渓谷美を全身で体感する体験は、日高町ならではの特別な思い出になるはずです。

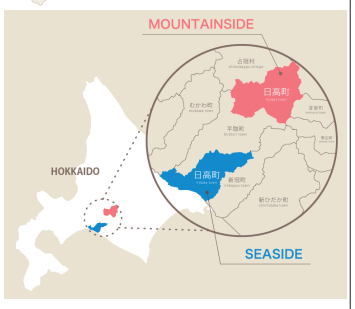
○大自然に抱かれた人気スポット「日高沙流川オートキャンプ場」

沙流川のほとりに広がり、毎年多くのキャンパーで賑わう道内屈指のオートキャンプ場です。充実した設備と広大なフリーサイト、ペットと楽しめるドッグランなどを備え、初心者からベテランまで快適に過ごせます。場内にはアスレチック遊具もあり、ファミリー層からの支持も絶大。隣接する川での水遊びや、豊かな森の中でのんびりとした時間を満喫でき、夜には満天の星が夜空を彩ります。

日高町へのアクセス



新千歳空港から
日高地区：車で約1時間30分
門別地区：車で約1時間



日高町公式ホームページ

ひだか観光ナビ（日高町観光協会）
URL：https://hidaka-kankou.jp/hidakatyou/

市町村から

日高山脈の雄大な自然と太平洋の海風が育む日高町。ここでは、地元の恵みを味わう絶品グルメや、町を挙げて盛り上がる注目のイベント、そして未来へ向けた街づくりの取り組みをご紹介します。

○グルメ情報

日高町は、海と山の恵みが一度に味わえる極上グルメの宝庫です。門別地区の太平洋沿岸で水揚げされる「マツカワ」は、「幻の高級魚」として知られており、引き締まった身と上品な脂の乗りが絶品です。刺身や寿司、煮付けなど、地元の飲食店で鮮度抜群の味をご堪能いただけます。また、「いずみ食堂」に代表される極太乱切りの名物田舎蕎麦や、道の駅内の手打ち蕎麦など、道内外にファンを持つ独自の蕎麦文化も自慢の逸品です。

日高地区では、日高山脈からの清らかな水で育ったヤマメは、引き締まった身とクセのない味わいが特徴で、塩焼きや天ぷらで親しまれています。また、恵まれた自然環境で育つブランド和牛や、日高産の新鮮な山菜・野菜も絶品。山と海の双方がもたらす贅沢な素材を活かしたローカルグルメが、訪れる人の旅の楽しみを一層広げてくれます。

○イベント情報

・森と清流の恵みに感謝「ひだか樹魂まつり」

日高地区の夏を代表する歴史あるイベントです。巨大な木彫りの竜「樹魂竜」を掲げて健やかな町づくりを願う伝統の行事から始まり、地元グルメが勢揃いする「うまいもの市」や各種ステージパフォーマンスなどで会場全体が大いに賑わいます。フィナーレには日高国際スキー場のゲレンデから夜空へ迫力満点の花火が打ち上げられ、日高の短い夏を鮮やかに彩ります。



・子どもから大人まで楽しめるイベント盛りだくさんの夏祭り「富川せせらぎ公園花火祭り」

毎年夏に門別地区で開催される恒例イベントです。和太鼓の盆踊りやカラオケのど自慢、子どもクイズ大会、ものまね大会などのステージイベント、地元の美味しいものが集まる露店街など、子どもから大人まで賑わい日高の夏の思い出をドラマチックに演出します。

○取り組み

・日高山脈襟裳十勝国立公園の保全と活用

日高町が位置する日高山脈エリアは「日高山脈襟裳十勝国立公園」に指定されています。町ではこの貴重な自然環境を後世へ引き継ぐ保全活動を進めるとともに、登山やアウトドアアクティビティを通じた持続可能な地域活性化に取り組んでいます。

・AIデマンドバス「すこバス」等の活用による地域公共交通の最適化

広大な町域とJR日高線廃止等の環境変化に対応し、住民や来訪者がスムーズに移動できる持続可能な交通ネットワークを構築し、AIを活用して乗車の予約状況に応じた最適な運行ルート・スケジュールをリアルタイムで算出する予約制乗り合いバス「すこバス」を導入しています。自宅と各連絡施設間を結ぶ密着型の交通手段として、買い物や通院などの日常の移動をきめ細かくサポートしています。また、複合施設「とみくる」への停留所集約により、デマンドバスと広域路線バス・高速バスとの乗り継ぎ環境を強化しています。

移住について

○暮らしを体感する「ちょっと暮らし」でお試し滞在

日高町でのリアルな生活を実際に試すことができる「移住生活体験ハウス（ちょっと暮らし住宅）」をご用意しています。家具や家電を完備した快適な住宅に短期間滞在し、四季折々の美しい自然風景や地域特有のゆったりとした時間の流れ、生活インフラの利便性を肌で実感していただけます。移住を検討される方の第一歩として大変好評を得ています。


日高沙流川オートキャンプ場

○住宅取得を力強く後押しする「移住定住促進助成金」

本格的な移住・定住を決意された方向けには、住宅の新築や購入、改修にかかる費用を助成する「移住定住促進助成金」を設けています。特に高校生以下の子どもがいる世帯に対しては「子育て加算」を設けるなど、子育て世代の住まいづくりを強力にサポートしています。

○新規就農・就業へのきめ細やかなサポート体制

日高町の基幹産業である農業や軽種馬生産・育成に関わりたい方をはじめ、新天地での就業を目指す移住者への手厚い支援を行っています。農業に挑戦する方への研修費用助成や技術習得のサポート、就労・生活相談のワンストップ対応など、移住後の暮らしや仕事が円滑に定着するよう、地域ぐるみでしっかりと寄り添い、安心して暮らし続けられる環境づくりを進めています。

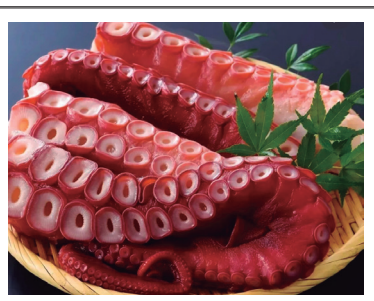

日高国際スキー場

ふるさと納税

【ふるさと納税で繋がる応援の輪】

日高町を応援してくださる皆様からの「ふるさと納税（寄附金）」は、まちの未来を担う貴重な財源として大切に活用させていただいております。皆様からいただいた寄附金は、将来を担う子どもたちの教育環境の充実や、豊かな自然環境・景観の保全、さらには地域医療や福祉の向上、地場産業の振興など、多岐にわたる事業に配分されています。

寄附をしていただいた皆様には、日高町が誇る極上の特産品を感謝の気持ちを込めてお贈りしております。全国の競馬ファンに喜ばれるサラブレッド関連グッズをはじめ、新鮮な海産物、美味しいお肉や農産物、地酒など、日高町の魅力を存分に味わっていただけるラインナップをご用意しております。日高町のまちづくりに、皆様の温かいご支援をよろしくお願いいたします。

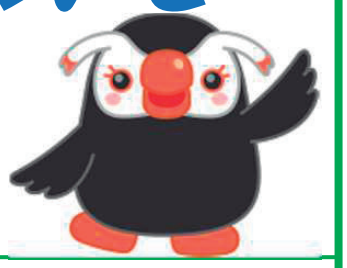


【お問い合わせ】日高町商工観光課
☎01456・2・6031

※掲載されているイベント情報は諸事情により開催日程の変更、中止の可能性があります。ご了承ください。

●お問い合わせ
日高町役場　〒059－2121　北海道沙流郡日高町門別本町210番地の1
TEL：01456－2－5131　FAX：01456－2－5615
E-mail：info@town.hidaka.hokkaido.jp
公式ホームページ：https://www.town.hidaka.hokkaido.jp/

北方領土問題への北海道の取組について



北海道は、北方領土問題の解決を道政上の最重要施策として位置づけ、北方領土問題の早期解決に向けた国の外交交渉を後押しするため、必要な諸対策を積極的に推進しています。

今回は、北海道が行っている取組の一部を紹介します！

1　「北方領土サポーター」制度

北海道では、道内の中学生や高校生、大学生等が北方領土問題に興味や関心を持ち、北方領土返還要求運動に参加しやすい環境を作るため、「北方領土サポーター」制度を設けています。

北方領土サポーターには、北海道などが行う啓発活動（街頭行進やイベントでの啓発）への参加や、啓発活動の企画・実施をしていただいています。

啓発活動などに参加することで、同世代のサポーターと交流したり、北方領土に関する知識を深めることができます。



○北海道北方領土対策本部
公式YouTubeチャンネル



赤レンガ北方領土特別企画展
（８月札幌市内）



北海道・東北国民大会
啓発街頭行進（８月札幌市内）

2　北方領土探求プロジェクト～リレー講座～

北海道では、北方領土問題について理解を深めてもらうため、オンライン講座（全５回）を実施しています！参加費は無料ですので、ぜひご参加ください！（第１回～第３回は実施済み）

・第４回　令和８年10月17日（土）14時～15時
　テーマ　北方領土の様々な時代
　講　師　ロシア語通訳協会　ロシア語通訳者　大島　剛
　開催方法　ZOOM
　対象者　どなたでも
　申込方法　右記二次元コードからお申し込みください。

申込期限
９月30日～１０月14日まで



なお、第５回 戦時下ロシアと極東地域の経済状況（講師：北海道大学名誉教授　田畑　伸一郎）については、１１月21日に実施しますが、申込期間は10月15日から11月18日（予定）としており、詳細は今後、北海道北方領土対策本部のＨＰやInstagramでお知らせします。

3　北方領土漫才「ふるさと」＆高校生交流事業の開催について

北方領土プロジェクト“N”メンバー（根室管内高校生）が運営に携わり、お笑いコンビ「アップダウン」による北方領土漫才「ふるさと」の公演と、高校生が制作した北方領土クイズの実演を行う交流事業を実施します。

どなたでも無料で入場できますので、ご興味のある方は、ぜひお申し込みください。
（定員の100名に達し次第、募集を締め切らせていただきます）

日　　時　令和８年10月18日（日）　13時30分～16時15分
場　　所　中標津経済センターなかまっぷ２階コミュニティーホール
　　（中標津町東２条南２丁目）
申込方法　右記二次元コードからお申し込みください。



北海道では、上記で紹介した以外にも、年間を通じて様々な取組を行っています。今後も、北海道倶楽部との連携をより一層強化して啓発活動などに取り組んでまいりますので、会員の皆さん、啓発活動への積極的なご参加・ご協力をどうぞよろしくお願いします！

詳しくは…　北海道総務部北方領土対策本部　検索

北海道

お問合せ先：北海道総務部北方領土対策本部　電話：011-204-5069（直通）



北方領土返還要求運動の
シンボルの花「千島桜」

利尻山 登山客が増加

「ヒグマいない！」が奏功

2024～25年は1万人超

道北の利尻島にそびえる名峰・利尻山（1721メートル）＝宗谷管内利尻、利尻富士町＝が、登山者の間で人気を集めている。2024～25年と2年連続で統計開始以来、初めて1万人を超えた。道内でクマによる人身事故が相次ぐ中、「利尻島にはヒグマが生息していない」とされ、全国の登山愛好家を引き付けているようだ。


近年、登山客に人気の利尻山

利尻山は「利尻富士」とも呼ばれ、日本百名山の一座。日本海にくっきりと浮かぶその姿は、おとぎの国のような光景だ。

環境省稚内自然保護官事務所によると、利尻山の夏季（6～10月）の登山者数は21年6083人だったが、22年には8403人に増加。24年には統計を開始した09年以降最多の1万695人に達し、25年も1万625人に上った。

人気の秘密は、利尻山にはヒグマが生息していない、とされるからだ。

オホーツク管内斜里町の羅臼岳（1660メートル）では昨年8月、東京からの男性登山客が下山中、クマに襲われて死亡。大雪山系でも今夏、登山道への出没や登山客が遭遇するケースがあった。

共同通信などが行った、スマートフォンの位置情報を使った全国調査によると、今年4～6月に道内の百名山に登った人数（推計）は、24年同期比で32％も減少。東北地方でも34％減った。「クマによる人身被害が多発している地域で減少率が上昇している傾向があった」という。

これに対し、「クマがいない」利尻山は全国の登山家に知られており、8月上旬、1人で登った兵庫県の男性は「利尻山は景色も良く、クマもいない。クマが出る道内の他の百名山は複数人でないと登れない」と話した。

ただ、登山者の増加に伴い、体調不良や負傷などのトラブルも。登山道は初心者向けではなく、山頂までの所要時間は往復で平均10時間以上。途中には水場もない。

稚内署は「登山時は装備や飲み水をしっかり準備した上で、登ってほしい」と、注意を呼びかけている。

道内2団体に地域文化賞

サントリー文化財団

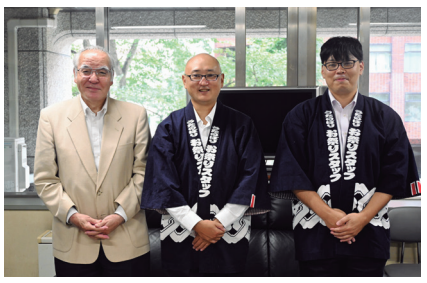
枝幸町「うたのぼりお祭りスタッフ」
平取町「FMピパウシ」

サントリー文化財団（大阪市）は、第48回サントリー地域文化賞に、道内から宗谷管内枝幸町の「うたのぼりお祭りスタッフ」と、日高管内平取町のFM局「FMピパウシ」を選んだ。同じ都道府県内で複数の団体が受賞するのは初めて。

うたのぼりお祭りスタッフは1986年、旧歌登町（現枝幸町）で結成。年越し、町を元気づけた。「メンバーも楽しみながら活動してきたことが、長年の継続につながっている」として評価された。

FMピパウシはアイヌ民族文化の継承に尽力した故・萱野茂さんが2001年に開局した。アイヌ関連のニュースやアイヌ語講座などを月1回放送、インターネットでも配信している。アイヌ文化に関わる人と、情報が集まる交流拠点にもなっている点が、高い評価を得た。

今回の受賞について、うたのぼりお祭りスタッフは「歌登という地域の支えがあって、続けてこられた。次の世代に地域の笑顔と誇りをつないでいきたい」。FMピパウシは「ラジオ放送を通じて、アイヌ語を話せる人が増えてきた」と話した。


写真、北海道新聞社提供。

都市対抗野球にJR北海道ク出場

初戦で敗退も応援は元気



社会人の都市対抗野球が8月26日、東京ドームで開幕、初日早速、札幌市のJR北海道クラブが登場し、昨年王者の王子（愛知県春日井市）と対戦した。都市対抗名物の応援合戦では、JR北グループの社員らが元気な応援＝写真＝を繰り広げてチームを鼓舞、試合を盛り上げた。

この日、3塁側のJR側応援席には、道内から「遠征」した関係者をはじめ、首都圏の関連企業の社員、道内出身者ら約5300人が陣取った。試合は投手戦となり、6回王子が2点を先制。8回、JR北海道クが1点を返したものの、惜しくも1－2で競り負けた。

緊迫したゲーム展開に、スタンドは息を飲んだ。JR北海道クの攻撃中は、ブラスバンド演奏や応援団のパフォーマンスで試合を後押し。「王子の応援に比べ、華やかさはありませんが…」と弁解する一幕も。

昨年に続き、1回戦で1点差負け。それでも、昨季のチャンピオンに肉薄しただけに、試合後、観客席からは「よくやった！」と大きな歓声がわいた。

5300人が「かっ飛ばせ！」

スピードスケートの岡崎さん

カーリング協会新会長に

日本カーリング協会はこのほど開いた理事会で、新会長に長野五輪銅メダリストの、岡崎朋美さん（オホーツク管内清里町出身）を選んだ。他競技出身者が会長に就任するのは初めて。

「元アスリートとして熱い気持ちでカーリングに尽力していきたい」と意気込みを語った。

岡崎さんは冬季五輪に5回出場した、元スピードスケート選手。日本オリンピック委員会（JOC）の橋本聖子会長が2014～19年、同協会の理事だった縁で、22年から理事を務めていた。外部の知見を持ち、発信力のある会長が必要だとの観点から、選出されたという。

就任会見で岡崎さんは「北から南まで、全都道府県に選手を増やしたい」と競技普及に意欲を示した。

ニトリレディス

佐久間朱莉選手優勝

道東初の女子プロゴルフにギャラリーどっと

女子プロゴルフのニトリレディス（ニトリホールディングス主催、北海道倶楽部会員）は8月27～30日、釧路カントリークラブ鶴居東コースで行われ、昨季年間女王の佐久間朱莉選手が通算11アンダーで逆転優勝、賞金1800万円を獲得した。今季開幕戦以来2勝目、通算では6勝目。

2位は、今年の全英女子オープン覇者の桑木志帆選手。道内勢も善戦し、阿部未悠選手（恵庭市出身）が3位、小祝さくら選手（北広島市出身）、宮沢美咲選手（千歳市出身）がともに6位に入った。

女子プロゴルフが道東で開催されるのは初めて。釧路市をはじめ周辺市町村から、大勢のゴルフファンが会場に詰めかけた。

北斗声

▼米国が国際刑事裁判所（ICC）の赤根智子所長を制裁対象に指定した。都合の悪い組織やその決定は「断じて許容しない」というトランプ政権の「力の支配」であり、脅しである。

▼日本政府の対応が弱腰だ。高市早苗首相の最初の反応は「大変残念だ」「深刻に受け止めている」。さすがに、これはまずいと思ったのか「法の支配」という日本の「国是」を口にしたが、一連の流れをみるとトランプ氏への忖度以外の何物でもない。

▼法政大元総長の田中優子さんは東京新聞のコラムで「法の支配について深い知識がないので米国に交渉できない」とも指摘した。

▼当の赤根所長は毅然としている。9月初め、都内のイベントにオンラインで参加。講演で「制裁は法の支配に対するあからさまな圧力。ICCの仲間とできることをする。私だけひるむことはできない」と力を込めた。

▼国内では、抗議する14万筆超の署名が集まり、「赤根所長を守ろう」という声は日増しに高まっている。EU諸国などを中心に国際世論も「法の支配」の重要性を訴える。

▼高市政権は、時がたつのを待つだけなのだろうか？このままでは「やはり日本は米隷属」と言われても仕方ない。（北）



びらとり 平取町のご紹介

「アイヌ文化と豊かな自然が息づくまち 平取町」 観光スポット

北海道日高地方の西部に位置する平取町は、日高山脈襟裳十勝国立公園の雄大な自然と、アイヌ文化が今も受け継がれるまちです。日高山脈を源流とする一級河川・沙流川（さるがわ）は、人々の暮らしや文化を育み、現在も地域の生活や産業を支える大切な存在となっています。歴史や文化、自然、食など、平取町ならではの魅力を体感できるスポットをご紹介します。



○二風谷コタン

平取町を代表する観光スポット「二風谷コタン」は、アイヌ語で「集落」を意味する「コタン」の名のとおり、アイヌ文化が今も受け継がれている地域です。沙流川流域で育まれた歴史や文化を感じられる場所として、多くの人が訪れています。

二風谷コタン周辺には、平取町立二風谷アイヌ文化博物館や沙流川歴史館、二風谷工芸館があり、アイヌの人々の歴史や生活、精神文化を学ぶことができます。

また、国の伝統的工芸品に指定されている「二風谷イタ」や「二風谷アットゥシ」をはじめ、木彫や刺しゅうなどの伝統工芸が今も受け継がれています。工芸家による制作の様子を見学したり、作品を購入したりでき、ものづくりの魅力を身近に感じることができます。



○幌尻岳（ぽろしりだけ）

平取町は、２０２４年６月に誕生した日高山脈襟裳十勝国立公園の玄関口の一つです。町内には日高山脈の雄大な自然が広がり、その象徴ともいえるのが、日本百名山の一つであり、日高山脈最高峰の幌尻岳です。

標高２，０５２ｍを誇る幌尻岳は、手つかずの自然が多く残され、高山植物や野生動物など、多様な自然環境に恵まれています。その雄大な自然を求めて、毎年全国から多くの登山者が訪れます。



○芽生（めむ）すずらん群生地

芽生すずらん群生地は、約15ヘクタールの広さを誇る野生すずらんの群生地です。初夏には可憐なすずらんが一面に咲き誇り、甘く爽やかな香りが辺りを包み込みます。

遊歩道を散策しながら、北海道ならではの豊かな自然の中で咲く野生すずらんを間近に観賞することができ、初夏の平取町を代表する景観の一つとなっています。



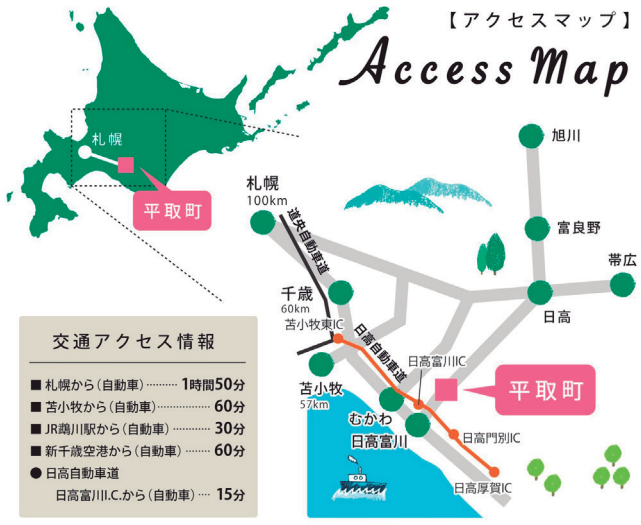
○義経神社

蝦夷地探検の命を受けた近藤重蔵らにより、１７９９年に義経の御神像が安置され、祀られたことを起源とする、長い歴史を持つ義経神社があります。

北海道に数多く残る源義経伝説を今に伝える神社として、町民をはじめ多くの参拝者に親しまれています。境内は四季折々の自然に彩られ、春には桜、秋には紅葉など、美しい景観を楽しむことができます。

平取町へのアクセス

URL：https://www.town.biratori.hokkaido.jp/biratori_guide/access/977.html



市町村から

平取町では、四季折々の自然や文化を生かしたイベントを開催し、多くの来場者をお迎えしています。



○春から初夏には、約15ヘクタールに広がる芽生（めむ）すずらん群生地で「すずらん観賞会」を開催しています。野生すずらんが咲き誇る初夏の風景と爽やかな香りを楽しめる、平取町を代表するイベントです。



○夏には、二風谷地区でアイヌの伝統儀礼「チプサンケ」が開催されます。アイヌ語で「舟おろし」を意味し、丸木舟を沙流川へ送り出す儀礼です。古式舞踊なども披露され、アイヌ文化の魅力を間近で感じることができます。



○秋には、「食の祭典 びらとり和牛・トマトまつり」を開催しています。平取町を代表する特産品である「びらとり和牛」や「びらとりトマト」を味わえるほか、特産品販売やステージイベントなどが行われ、多くの来場者で賑わいます。



○冬には、雪上でＰＫ戦を繰り広げる「全道ＰＫグランプリ」を開催しています。小学生から一般まで幅広い世代が参加する平取町の冬を代表するイベントで、昼食にはびらとり和牛やびらとり黒豚のバーベキューも楽しめます。

一年を通して自然、文化、食を楽しめるさまざまなイベントを開催しています。ぜひ平取町へお越しいただき、その魅力を体感してください。

移住等について

平取町で、新しい暮らし方を考えてみませんか。平取町は、札幌市や新千歳空港からも訪れやすい日高管内の西端に位置するまちです。夏は冷涼、冬は比較的温暖で雪が少なく、沙流川の流れ、幌尻岳、すずらん群生地、二風谷に受け継がれるアイヌ文化など、日常のすぐそばに豊かな地域資源があります。特産の「びらとり和牛」に代表される農業・畜産業も、まちの大きな魅力です。

移住を検討される方には、「びらとりで暮らそう 移住・定住・子育て」サイトで、住まい、生活、仕事、子育てに関する情報を発信しています。町内の空き家・空き地、民間アパート、二風谷移住定住分譲宅地「レラの里」など、住まい探しの入口となる情報も掲載しています。また、転入時に役立つ「平取町くらしのサポートブック」の配布や、一定の要件を満たす方への移住支援金、新婚世帯の新生活を支援する補助制度など、新しい暮らしのスタートを後押しする取り組みも行っています。

仕事の面では、平取町地域担い手育成センターを中心に、将来の就農を目指す方への相談・研修支援を行っています。平取町では、主にトマト栽培を通じて、土づくり、育苗、生育管理、防除、収穫・出荷までを実践的に学ぶことができ、研修生住宅や実践農場など、就農に向けた環境づくりも進め